

第6回多治見市第7次総合計画策定市民委員会 会議録	
日 時	平成27年6月8日(月) 午後6時00分～午後8時00分
会 場	多治見市役所駅北庁舎 4階第3会議室
出席委員	古池嘉和委員(会長)、木下貴子委員(副会長)、伊藤浜三委員、 宇佐見信一委員、奥村崇仁委員、小池雅子委員、竹本幸二委員、 堀尾憲慈委員、前田市朗委員、宮村登美子委員、吉田有記委員、 若尾由美江委員 (委員15名中12名出席)
欠席委員	飯野真理子委員、隈元智子委員、山田輝幸委員
事務局	水野企画部長、桜井課長、岩島課長代理、長谷川課長代理、 水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主査
傍聴人	3名
会議録要旨	
1	開会あいさつ(古池会長あいさつ)
2	議題(1): 第5回市民委員会会議録(案)について 事務局 資料1「第5回市民委員会会議録」について事務局から説明 会長 修正すべき点等あれば指摘を求める。 《なし》 会長 第5回市民委員会会議録とする。
	議題(2): 基本構想(素案)について 第1章 第7次総合計画の策定にあたって 第2章 長期ビジョン ～次世代に引き継ぐ「多治見らしさ」～ 第4章 人口と財政の見通し 事務局 基本構想(素案)第1、2、4章について、資料2、3、4を用い事務局から説明 委員 第2章「多治見らしさ④」にある「他都市との連携」はどこを想定しているか。また、「優位なまち」とはどこと比較して優位であるか。 事務局 他都市との連携は、世界中の都市との連携が可能と考える。従来の東濃だけでなく、愛知県、特に東海環状自動車道の整備により三河地域も近くなった。また、JR中央線により名古屋中心部へ30分で行くこともできる。これらの交通アクセスの優位性は、他都市との比較ではなく、多治見のチャンスであり、魅力と考える。 委員 第2章「多治見らしさ③」にある「多治見型コンパクトシティ」とは何か。

- 事務局 多治見型コンパクトシティは、中心市街地に商業、文化娯楽、行政機能を集約し、郊外団地から中心市街地への移動を支援するものである。
- 会長 富山市では、合併により面積が広がった中、中心部に重点的に投資し、中心部への居住を誘導するコンパクトシティである。多治見の考えるコンパクトシティはこれとは異なるが、市民にはなかなか理解されないのではないか。
- 委員 多治見駅周辺のみを中心とするのではなく、郊外にもそれぞれ核となる場所がある。その郊外の核と多治見駅周辺の中心市街地を結ぶことで、郊外も盛り上がるのではないか。
- 会長 中心市街地にしかない施設は、郊外から出てきて使い、多様性のある郊外は、郊外の中でも元気になるコンパクトシティを考えてほしい。
- 事務局 多治見駅周辺の整備に集中して投資しているが、郊外もポイントと考えている。しかし、今後、人も減り、税収も減る中で、全てに投資することは難しい。郊外では日常生活を過ごし、商業施設や医療施設は中心市街地で利用する。その移動に必要なサービスを行政が提供する。そういったコンパクトシティを考えている。
- 会長 これからの厳しい行財政運営では、行政が全てを行うのは難しい。いかに住民同士が助け合えるかが必要である。
- 委員 資料4の転出超過の説明を。
- 事務局 平成17年に15～19歳の男性3,173人が、平成22年に20～24歳になった時に2,489人になっている。この年代で亡くなる方は少ないので、ほとんどの方が転出している現状にある。
- 委員 第2章の「多治見らしさ」とは、既にある魅力か、これから目指す魅力かどちらを考えているか、
- 事務局 既にある魅力を、さらに高め、次世代に引き継ぐことを考えている。
- 委員 第2章「多治見らしさ⑤」では、自治会・消防団など高齢化が進んでいるが、若い人が入らない現状がある。行政として、この課題に対するアイデアはあるか。
- 事務局 地域活動を盛り上げるためには代替わりが必要と考えるが、行政として何ができるか悩んでいる。地域活動の運営は市民が苦勞し頑張っていたたく。そのための技術的助言を行うことはできるが、いかに「地域に貢献したい気持ち」を育て、応援するか。やっていただくことなので非常に苦勞している。
- 会長 「多治見型コンパクトシティ」は、ハード事業だけでなく、ソフト事業もあるのではないか。地域の悩みを相談でき、相互支援する場を中心部に設置してはどうか。
- 委員 第2章「多治見らしさ③」で考える交通手段はバスを想定しているか。名古屋へ通勤する郊外団地に住む友人は、JR中央線は便利であるが、バスが不便であるため、多治見駅周辺に低価な駐車場を作ってほしいと言っ

ていた。そういった視点はないか。

事務局 移動手段には、自力で運転できなくなった高齢者や免許を持たない子どもの移動手段と若者の移動手段は異なると考えている。また、本市の道路網で車による移動を促進することは渋滞の課題がある。そのため、誰もが利用できる公共交通を移動手段と考えている。

高齢化した団地には、若い人がいなければ地域力が継続しない。既に整備した郊外団地のインフラを活用し、若い人に入ってほしい。

会長 渋滞の課題もあるため、公共交通が移動手段の回答になると思う。

委員 人口移動について多治見市の特徴はどのようなか。

事務局 討議課題集「資料編」図表6により説明。

本市の特徴は、男女ともに10・20代の転出超過傾向がある。一方、30代と10歳未満の転入超過傾向がある。大学への進学や就職において市外へ転出、子育て世代による住宅購入の転入と分析している。これは本市の特徴であり、ベットタウンの特徴と言える。

第3章 まちづくりの基本方針

事務局 基本構想（素案）第3章について、資料2、3を用い事務局から説明
会長 NPOの交流拠点はありますか。

事務局 市民活動交流支援センター、通称ポルトがある。

委員 今の議論の重要性を考えるとポルトの活動をもっと充実させる必要がある。

会長 自治体の規模が違うが、金沢市のNPO支援は非常に活発で、活動をした人々と人を結ぶ場となっているので参考になるのでは。

委員 5つの政策「(3) にぎわいと活力のあるまちづくり」にある地元愛と郷土愛は何が違うか。

事務局 地元の人が地元を愛する気持ちを地元愛、自ら育った地域を離れても愛着を抱く気持ちを郷土愛としている。

委員 5つの政策「(1) 安心して子どもを産み育てられるまちづくり」に大学を誘致するアイデアはないか。

学校教育や先生と地域とのつながりが必要と考えるがどうか。

親育ち4・3・6・3は触れられていないがどう考えるか。

これからの財政状況では、行政としてやるべきことを絞って実施する必要があるのではないか。

事務局 大学は都心回帰している現状で、本市に大学を誘致することは困難と考える。地域の人財とのつながりや親育ち4・3・6・3については、「子どもが家庭、地域、学校で豊かな人間関係を築き、社会と関わり生きる力を身に付けることができるよう、充実した子育て環境を整えます。」に意識して記載しているが、文書を再考する。

会長 大学の誘致は都心回帰している現状があるので難しいが、大学生に選ばれるまちにすることは考えられないか。地域と関わることを前提に家賃を安く設定することで、名古屋に通う大学生が多治見に住むチャンスはあると思う。

委員 中心市街地への交通についても、行政がやるだけでなく、市民が地域の課題として取り組むこともあるのではないかと。ポルトをその課題を解決するために知恵を出すのを助ける機関になりうると思う。これから求められる施策であるため、スペシャリストの配置などポルトを充実させる必要があるのではないかと。そういった場が充実すれば、地域に貢献したい人が集まり、課題解決に向けた取組に発展、「ひとのわ」にもつながるのではないかと。

会長 厳しい行財政運営の中で、行政の施策にメリハリをつけることを求められる中で、ポルトを充実させ、地域に貢献したい人がまちを元気するための核となる場に変える必要があるのではないかと。

委員 人口減少の対策は、流入促進、流出抑制、出生率の向上がある。その中で、出生率の向上に重点的に取り組むことは何があるか。少子化の原因として、若者の正規雇用がないことが挙げられるが、雇用の場をつくる必要があるのではないかと。

事務局 少子化対策を、一自治体で解決することは難しく、社会保障や税など国策によるところが大きいと考える。本市として取り組むことができる雇用の場の確保は引き続き行う。国もまち・ひと・しごと総合戦略で出生率向上に取り組むが、本市も国と連動して出生率向上できるように一自治体でできることを進める。

委員 長期ビジョンに「多治見らしさ」、つまり多治見の魅力を表現してあることはうれしい。

NPO支援だが、行政が人財と人財をつなげる場を提供することで、多治見を元気にしたい人が中心となり、NPOが活発なまちになるのではないかと。

事務局 人事異動がある市職員がNPO支援を行うことは難しいので、指定管理で支援をしているが、今回の議論で方法を検討する必要があると感じている。

行政だけでなく、東濃信用金庫もNPO支援を行っており、民間の中からNPO支援が始まったことは行政の強い味方だと考えている。特に、金融機関であるという点で、NPO活動において必要な資金面で大きな助けになると考えている。

NPO支援については、次回以降に予定している第7次総合計画期間内に具体的に実施する基本計画の検討の中で議論いただきたい。

会長 市民も行政だけでは全てができないことを理解しているので、市民と行政が一緒に地域の課題を解決することを前面に出してはどうか。

事務局 その意図で5つの政策の1つに「(5) 市民が互いに助け合い、学び合うまちづくり」を出している。

委員 5つの政策「(3) にぎわいと活力のあるまちづくり」にある「新たな観光資源を創造し」とあるが、具体的に何を考えているか。

事務局 土岐川河川敷サンデーマーケットのような取組が一つの可能性として挙げられる。

この分野は行政が何かを仕掛けるのではなく、地域の人が仕掛けたイベントがおもしろい。そういったイベントが新しい観光資源になると考えている。

委員 花フェスタ記念公園は、20周年イベントにまち・ひと・しごと総合戦略の補助を受け、前年比で3倍の集客を得ている。また、瑞浪市は自転車やゴルフなどを観光資源としている。特にゴルフでは海外から誘客するなど積極的に取り組んでいる。

多治見市には、宿泊施設がないため、日帰り観光がメインとなる。多治見の歴史や文化、永保寺、修道院、美濃焼など観光資源を使って誘客するためには、イベントや企画が必要である。また、美濃焼のブランディングも必要ではないか。

観光協会の企画がもっとあってもいいのではないか。

第7次総合計画では、地方から観光客を呼び寄せてほしい。

委員 クラブ活動の支援が必要ではないか。色々な競技で一番になり取り上げられることで、スポーツが盛んなまちとなり、まちが元気になるのではないか。また、市の代表となれば地元愛も育まれるのではないか。市として部活やクラブ活動支援をどう考えているか。

事務局 多治見市生涯スポーツ推進プランを策定し、「底辺の拡大・高い頂の形成をめざす」を掲げ、トップアスリートの育成を明確にしている。次回以降の平成28年度以降に具体的に実施する基本計画の議論には、その視点で案を出させていただく。

委員 競技スポーツで優秀な生徒は、高校進学時に市外の強豪校へ進学している現状は残念だ。

委員 NPO支援は第6次総合計画の基本計画事業であったが、成果が上がらなかったことは残念である。第7次総合計画ではそうならないようにしていただきたい。

委員 市民は情報を欲しがっている。私はポルトで他にどんな組織があって、どんな活動をしているか興味が湧いた。地域に貢献したい人は、他の団体の活動を知ること、自分にできることがわかってくると思う。5つの政策の中で、「(5) 市民が互いに助け合い、学び合うまちづくり」が第7次総合計画の魅力だと思う。

事務局 第8回多治見市総合計画策定市民委員会は7月21日（火）に開催する。
事務局 6月13日（土）に「たじみ市民提言会議」を開催する。

<会議終了>